



セリバヒエンソウ

第49回散策路の会活動報告

■日時: 2011年4月24日(日)13:30~16:00 天候: 晴れ

■参加者: 家原靖義、岩崎三郎、大屋進、奥田せい子、小坂泰子、瀬尾友紀、瀬尾祥子、=計7名。

若葉萌える広町の森はすっかり濃淡の緑一色に輝いています。

二本橋からきはち窪までの山際の細い道、以前足を踏み外して落ちた人がいるという。ちょっと油断するとこの崖から沼地に落ちそうになる。以前からどのように整備するか検討していた。今日はこの箇所に取り組む。

崖縁の細い道に安全柵、

—— 2m間隔の柵にロープ張る ——

上記の箇所は岩崎さんが設計図を書いて案を出され、皆で検討していた箇所である。パイプを組み立て道を拡幅する意見もあったが、広町の景観にふさわしいやり方で考えようと皆の意見が一致。木杭を打ってロープを張って、注意を促そうと取り組むことになった。

前回準備した1mの丸太棒の出番である。先端を鉛筆のようにチェーンソーで削ってそれを打ちつける。崖縁に2mおきに立てた。木の根が這っているのので固く、掛け矢を握る手にも力が入る。杭の数は35本。その間をロープで縛ってつなぐ。ロープを杭にしっかり巻き付け、針金で留めるのは女性のしごとであった。(意外に力がある) 全長68mを仕上げ今日完了。

これで崖から落ちる人も無くなるであろう。ホタルの舞いを見に来る人の安全も確保できた。この続きが50m余残っている。これを次回の作業に回すことにした。

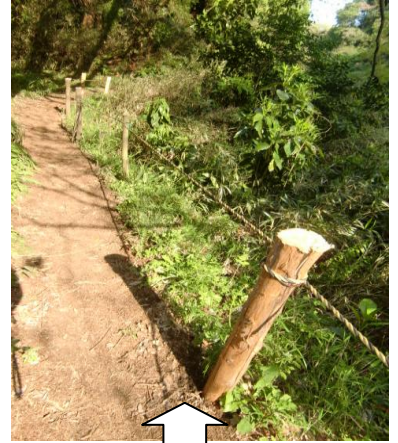
右写真は二本橋からきはち窪へと伸びるロープの柵である。



杭削り



柵を掛け矢で打つ



次回活動内容: 5月8日(日)9:00~12:00

① 二本橋からきはち窪までの道整備 ② 実施設計の園路計画について